【取扱い厳重注意】

平成２３年８月１１日

聴　取　結　果　書

東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会事務局
局　員　飯崎　準

平成２３年８月１０日、 東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証のため、関係者から聴取した結果は、下記のとおりである。

記

第１　被聴取者、聴取日時、聴取場所、聴取者等

１　被聴取者

福島県楢葉町役場　　環境防災課長　　鈴木博

福島県[redacted]主幹　[redacted]

２　聴取日時

平成２３年８月１０日午後１３時１０分から同日午後１４時１０分まで

３　聴取場所

楢葉町役場会津美里町出張所

４　聴取者

飯崎補佐

※　複数人で聴取したときは、全員の氏名を記載する。

５　ＩＣレコーダーによる録音の有無等

☑　あり

☐　なし（理由：(「対象者の希望による。」など簡潔に記載)）

第２　聴取内容

避難措置について

別紙のとおり

第３　特記事項

なし

【取扱い厳重注意】

別紙

1　被聴取者の身分

鈴木課長は、原子力災害対応全般を総括していた者、[redacted]県主幹は 3/23 から楢葉町における災害対応の補助者として県から派遣されている者である。

2　地震後の状況

地震後、楢葉町では停電はなかったように記憶している。ただ、パンクしてしまったのか、電話はつながらない状態であった。

津波警報があったので、直ちに防災行政無線で避難を呼びかけており、住民は町で指定している避難所に避難した。

余震が続いたことと、津波警報が解除にならなかったことから、避難所は翌日(3/12)も継続している。

3　3/12 7:45の第二から半径3kmの避難指示

第二から半径３kmに避難指示が出て初めて楢葉町は避難区域になった。この避難指示を国や県から受信したという職員は確認できていない。町としては、テレビで初めて知った状況であった。

これを受けて町長から、どうせすぐに戻って来れるんだろうから、大事を取って３０km以上離れているいわき市に町全体で避難し、落ち着いたら町に戻ろうという指示があった。

早速いわき市と調整して、避難先として、いわき市立中央台南小学校他８か所を指定してもらい、防災行政無線で町全域に対していわき市への避難指示を行った。避難は、町で保有するバスを使い、足りない分はマイカーで移動してもらった。

午後２時過ぎに、大熊町からバスが２０台ほどやってきたが、この時には既に住民は避難中であり、使う余地がなかったことから帰ってもらっている。

マイカーを使ったことで道路が渋滞し、午前中に移動を開始したものの、町民の移動が大方終了したのは午後４時過ぎになっていた。

4　3/13以降の状況

避難所にいる限り、支援物資が各機関から届いており、幸いなことに物資が不足していることを実感することはなかった。

3/15 以降、いわき市で放射線量が高くなり、いわき市は安定ヨウ素剤を配布するという動きが出てきた。

楢葉町は備蓄していた安定ヨウ素剤を避難所まで持ってきていたことから、こういった動きを受け、町長判断で 3/17 に住民に対して安定ヨウ素剤を配布している。

このとき、県の災対本部に連絡して服用の指示について聞いたところ、今のところ服用指示が出るような状況ではないとの回答であったことから、配布はしたものの服用の指示は出していないし、配布した分については回収もしていない。

いわき市での避難生活が続く中、いわき市自体も地震や津波の被災地であり、そこが避難民の受け入れをするのは大変であるとの配慮から、町が災害時相互支援協定を結ん

でいる会津美里町への移転が検討され、町長、議長、総務課長が、学校が始まる前に移転することで会津美里町とも合意したそうで、3/25 以降、町が手配したバスで希望者を順次移送した。

5　緊急時避難準備区域の状況

楢葉町のほとんどは、第一原発から半径２０ km に該当するが、一部２０ km 以遠に至る場所もあり、３地区２３世帯約５０名が生活していた。彼らも含めて 3/12 に避難指示を出しており、実際に避難している。

この２０～３０ km の地域は、4/22 に屋内退避が解除され、緊急時避難準備区域になったため、戻ろうと思えば戻れるのだが、警戒区域に設定された道路を経由しなければ入れないため、未だ戻った者はいない。

町としては、警戒区域の設定の際に、同心円状に区切るのではなく、町の緊急時避難準備区域に入る道路は解除するなどの要望を行ったが、認められていない。

6　4/22の警戒区域設定後の一時立入

一時立入前にも、避難区域内で盗難が相次いでいるとの話があったため、町民の中には自主的に中に入る者もいたようであるが、警戒区域設定後は、検問が厳しく、正規に割り振られた一時立入実施日以外に中に入る者はいない。

一時立入した住民からは、家を出てきたときには無傷であったのに、おそらく行方不明者捜索のために、家の一部が破壊されていたとの苦情があった。

持ち出せる荷物の量があまりに少ないという苦情も多い。

なお、警戒区域に設定された現在も、２０ km 圏内に３世帯４名が残っていることが確認されており、説得に応じないため、定期的に町で食料品を供与するなどの支援を行っている。

以　上